

会議録

会議名	第1回印西市緑の基本計画検討委員会
開催日時	令和2年8月21日（金）発送 令和2年9月9日（水）意見書回収完了
開催場所	書面開催
出席者	阿部伸太委員、安田博道委員、富塚武邦委員、勝正弘委員、鈴木康雄委員、川合秀和委員、清水眞市委員、山口道博委員、小山尚子委員、高橋誠委員
議題	第一回検討委員会資料に対する意見について
会議概要	第一回検討委員会資料に対する意見について 書面開催に伴い意見書を提出していただいた。
審議経過	委員からのご意見については下記のとおり

【資料1（計画書）への意見について】

対象ページ	ご意見の概要
1	<p>p1 計画策定の目的・背景</p> <p>①都市公園法の改正（借地公園や立体都市公園など）/都市公園におけるストック効果/Park-PFI などの記載は必要ないですか。</p> <p>②景観法との関連（特にこの時、都市緑地保全法も関係ありましたので）</p> <p>③近年の気候変動の中での防災的視点としてのグリーンインフラの重要性</p>
1	<p>p1(2)②計画策定の背景のア</p> <p>田んぼや谷津、台地、斜面林などを緑のインフラと捉えるグリーンインフラの考え方を追加したらどうか。</p> <p>最近の激甚災害について言及し、その災害防止対策や地球温暖化適応策として田んぼや谷津が果たす保水機能、コロナ禍により自然の中でレクリエーションを楽しむことが見直されているなど、防災機能の活用をもっと前面に出して、安全なまちづくりを目指していることを強調するべきである。</p>
1	<p>p1(2)②計画策定の背景のア</p> <p>SDGsについても言及した方がよい。</p>
2	<p>p2(2)②計画策定の背景のイ</p> <p>「一方で、ヒートアイランド現象や異常気象、激甚災害の多発などを受け、都市公園や、斜面林、谷津、農地等の緑が……」など、緑が樹木だけを表すのではなく、農地なども大切な緑であることを強調するのはどうか。農地や台地の防災機能を述べることで、安全なまちづくりにまた一つ大きな柱が生まれる。</p> <p>安全なまちづくりというと、ニュータウンの都市機能の面で言われている場面が多いように思うが、斜面林下の農家の安全面や川のすぐそばの田んぼの水没防止など、農業区域もきちんと入れ込めればよい。</p>

会議録

対象 ページ	ご意見の概要
3	p3関連する主な計画に「印西都市計画区域の整備、開発及び保全方針」を記載してほしい。
5	p5 機能 なぜ緑(緑地)が大切かを説明している箇所である為、もっと丁寧に書いた方がよい。グリーンインフラの機能の説明をしているのだから、どこかにその言葉を入れるべき。地球温暖化適応策という表現も追加したらどうか。
5	p5 機能 緑の防災機能は安全なまちづくりに欠かせない重要事項として、最初か二番目にあげたらどうか。
5	p5 機能 環境保全機能という言葉がよくわからない。都市環境の悪化を抑制するということか。
5	p5 機能 生物多様性機能という言葉もよくわからない。生物多様性保全・保護・再生機能の説明になっている。住民に利益になる機能という面では、生物多様性がもたらす効用(生態系サービス)などを挙げてもよいのではないか。 生物多様性の平成30年4月国土交通省都市局公園緑地・景観課の出している「生物多様性に配慮した緑の基本計画策定の手引き」を参考に、印西市の里山生態系の緑を守る姿勢を示せばよい。
5	p5 機能 レクリエーション機能にはコロナ禍の暮らし方、防災機能には激甚災害について言及するのはどうか。
5	p5 安心、安寧、癒し機能
6	p6 緑の保全を創出
6	p6計画の全体構成 基本方針を機能からのべることになっていますが、以前の計画の方が市民にわかりやすい。取組みは機能とはまた別のものである。機能を有効に使うために、あるいは機能を保持するためにどんな方針をとるかではないのか。
15	p15 農地、山林、保存樹木などの推移はあったほうが良いのでは。
21	p21 基本方針と取組施策の間に解説・説明を入れてほしい。 例)里山、屋敷林、歴史的施設等の保全及び管理
7	p7以降 現況と課題 緑の大半を占める里山については、耕作放棄田の増加による谷津の荒廃、手入れができなくなっているための斜面林の荒廃(タケやシノダケの繁茂)、台地の宅地化などにより、生物多様性の劣化はもちろん、雨水涵養機能や保水機能などの防災機能をはじめとして、様々な機能が失われつつあります。里山の生物多様性では、生息・生育環境の消失と劣化により、生きものの種数等が減っています。これらの現状を見える化できないか。

会議録

対象ページ	ご意見の概要
	<p>①生物多様性が高い谷津がどのくらい陸地化したか地図で表す</p> <p>②トンボの種類が何種類絶滅したのか</p> <p>③サンバの営巣数が減ったこと</p> <p>④外来生物が増えて水辺の在来種の環境が脅かされていること(池や沼はアメリカザリガニ、川はナガエツルノゲイトウ(これは水田にも多大な被害)オオブタクサとアレチウリ)</p> <p>⑤道路を中心にしたオオキンケイギク被害</p> <p>⑥アライグマやハクビシン被害</p> <p>⑦イノシシによる農業被害</p> <p>上記のように具体例が示せたらよい。</p>
18	p18 緑地がこれほど増加している要因は何ですか。
4	p4 写真 住宅地の緑や創出系の緑である公開空地の緑があっても良いように思う。
24	p24 印西市役所の写真 緑化が積極的に進められているインパクトが弱いように思う。

【緑の基本計画全体への意見について】

対象ページ	ご意見の概要
	他部局との関係があるときの調整部局を作れないか(すでにあるのかもしれないが、市民にはわからない)。特に環境や緑の計画は、農業や環境施策と関係するので、その協力が欠かせない。
	前回の基本計画に対する評価検証の中に、 (A)成果の内容 (B)問題点と申し送り事項 が必要ではないか。
	緑地の一般的な統計等からは具体的な市民の生活が見えてこない。 公園と住宅地との関係や、公園を利用している層に関する情報があると、もう少し生活に即した公園が見えてくるのではないか。 アンケートの対象者を無作為に抽出しているのも気になる。
	住宅地との関係性が知りたい。 ・住宅地内の公園の使われ方等はどうなっているのか。 ・徒歩 10 分圏内に公園がある住宅の比率等、住宅から見た公園の統計などはあるのか。
	公園を最も利用している層と、その層が公園をどのように使用しているのかを知りたい。

会議録

対象ページ	ご意見の概要
	印旛沼公園及び北総花の丘公園の整備及び管理に関する方針に係わるものを定める場合は事前に協議してほしい。(県立公園)
	サブタイトルをつけるべき。
	企業用地の緑化については、近隣の里山環境と整合性のある植栽にするべき。
	ゴルフ場の緑は今後さらに貴重となる。周辺の里山環境もいっしょに保全できるようにゴルフ利用税の活用を考えたかどうか。
	耕作放棄された谷津は、近隣市民の参加によって市民田んぼないしは湿地として保全できるようなシステムを作る(前回の計画にも記載)。その場合、森林環境税や農地の多面的機能助成金などを使うことも考えられる。
	<ul style="list-style-type: none"> ・印西市の所有する宅地予定地や緑地は、災害対策も含めて可能な限りそのままに残すべき。 ・緑地は湿地として保水機能を持たせ、台地については里山公園やクラインガルテンなどの市民の憩いの場として残し、コロナ禍で自然回帰を求める市民の声にこたえとともに災害時の避難場所として確保する。
	<p>グリーンインフラ事業を活用する場合、緑の基本計画に基づいたグリーンインフラ活用型都市構築支援事業計画を策定することになる為、活用を考慮して基本計画に具体的な政策を盛り込むべきではないか。</p> <p>対象事例として、①公園緑地の整備②公共公益施設の緑化③民間建築物の緑化④市民農園の整備⑤緑化施設の整備(①～④を併せて整備することで目標達成に資するものに限る)</p>
	<p>現状の問題点として温暖化による大きな環境変化が生じており、その対策として本市としての具体的対応を示す必要があるのではないか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・CO2 低減化の目標設定 ・エネルギー自給率の制定、持続可能エネルギーへの転換 ・地産地消制度の制定 ・温暖化を抑えるための緑化推進
	緑の環境確保の重要な指標として「酸素」の確保が挙げられる。他の国の緑に依存するのではなく、自らその必要酸素を管理する意識が必要となる。その為の緑化指標が必要である。
	<ul style="list-style-type: none"> ・生物多様性がもたらす生態系効果は、市民の健康のために有効でもあり、この点もしっかり緑の基本計画に入れる。 ・将来的にも維持しておきたい生物環境や稀少種の生息・生育する環境を持つ地区については、ゆるい形でも保護区・保全区として指定できないだろうか。たとえば、耕作されなくなった谷津など。 ・市民や市民団体が保全に取り組んでいる場所については、結縁寺地区と同様に重点地区にする、計画の見直し時期でなくても、新たな指定ができるなど検討してほしい。

会議録

対象ページ	ご意見の概要
	<p>生物多様性の宝庫と言われている里山の生き物は危機的な状況にあると言われ、生物の多様化の劣化は人間自身の生命の危機ともいわれている。</p> <p>里山保全の為、具体的な目標制定が必要である。</p> <p>食物連鎖の頂点に立つ猛きん類、サンバを印西市にも確保する施策等が必要ではないか。</p>
	<p>市民アンケートに河川・水路のきれいさというのに不満が一番多かった。師戸川の水質のことだろうか。あるいは亀成川がオオブタクサやアレチウリでおおわれて水面が見えなくなっていることか。水質については、ニュータウンに近接して建設された住宅の合併浄水の設置について、厳しい基準と点検(環境保全課)など、具体的に言及できないか。</p>
	<p>池や河川に、周辺の宅地や店舗から流入する雨水以外のものについて、対応するための条例などを設けられないだろうか。</p>
	<p>世界的に食糧不足が大問題となっており、食糧の過半数を輸入に頼っている日本は他人事ではない。農家の高齢化による農業離れも急速化しており、印西市に於ても食料自給率向上の制度が必要である。農業が占める里山／緑保全は大きなウェイトがあると考えます。</p>
	<p>急速なICT化の波の影響なのか、子供世代においてスマホ・ゲーム依存症が進み、WHO でも病気として認定し対応策を指示している。その治療法の一つとして「緑の自然環境の中に身を置く機会を創る」というものがある。市内の自然環境を子どもたちの健やかな成長の場所として確保・整備する必要がある。</p>
6	<p>p6計画の全体構成</p> <p>緑化重点地区など、市民や市民団体が積極的にかかわっている場所をさらに追加したらどうか。市民との協働によって、保全していくことを推奨したい。</p>
6	<p>p6計画の全体構成</p> <p>耕作放棄田は、災害対策や市民田んぼなどで活用することによって、安全で健康、自然豊かなまちづくりが推進されるのではないか。前回の計画にも耕作放棄田対策として入っている為、その仕組みを作っていけたらよい。</p>
17	<p>p17以降 3意向調査結果</p> <p>アンケートの集計結果が説明されているが、この結果を受けて今回の基本計画に反映されるのか。</p> <p>「防犯面」に関して不満の回答が多いが、今回の基本計画に「防犯対策を考慮した公園に改築する」とか「地域との防犯協定を締結し、安全な公園を目指す」などの意向が反映されるとよい。</p>
25	<p>p25 4前計画の進捗状況 基本方針5</p> <p>緑化重点地区への取組検証に関して、緑の面的な地区設定であり緑の保全と利用に重要な位置づけとされることから、今後も充実できればよい。</p> <p>現在は2地区だが、今回の基本計画では2地区の充実を図るのか、新たな地区を設定するのか検討してほしい。</p>

会議録

対象ページ	ご意見の概要
10	p10 目玉事業 オニバス復活大プロジェクト
19	p19 アンケート結果より 公園の適正な維持管理からさらに踏み出し、再整備、機能アップを視野に愛される公園を目指す。 緑の維持・保全に留まらず、積極的な緑の創出を目指す。
22	p22 緑の質の再点検と地域に配慮した再整備を検討する。
23	p23 慣れ親しまれた本来の水辺環境の復活のための整備及び保全
24	p24 市民、企業、市による協働事業により緑と花のルート化、回廊作りを目指す。 目玉事業－オニバス
25	p25 市民、企業、市による更なる豊かな緑あふれるまちづくり ・花壇苗の生産(種子から) ・巨樹 古木の調査、保護、保全 ・緑の道、自然探索路等の指定
26	p26 緑や緑化への啓蒙・啓発を行い、市民意識の高揚を図る。 公園や街路樹の整備への市民参加。 生育環境、市民意識、地域特性に沿った植栽等。
	平成 12 年に策定された計画書の内容が素晴らしいので、それを基本に検討したらよいのではないか。
	これからの 20 年後までを考えるのであれば地球上の問題等も考慮し、これから変化する社会に対応した内容も市のテーマとして入れるべきではないか。
	花いっぱい庭園的公園と里山生態系を残す公園、どちらもありの公園など、地域住民や保全団体と協働して維持管理することがますます望まれる。美化団体という名称になっているが、生態系保護もしていることがわかる名前に変更したらどうか。公園作り団体？ 公園管理協力団体？ 親しみやすい名称を考えてみたい。
	一人当たりの公園面積が 10 m ² 以上となる為、新たな都市公園整備を通常の公園整備交付金事業として整備することが難しくなる。長寿命化計画による公園施設の更新や再整備等を方針や施策に盛り込む検討が必要ではないか。